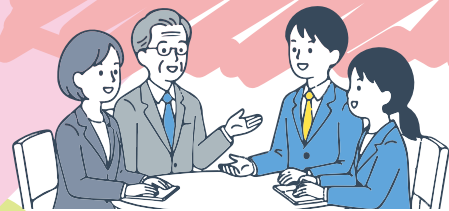


教えて!

## コミュニティ・スクール

教育委員会の担当者にお話を伺いました。



社会教育課 小暮社会教育指導員



教育指導課 菊池指導主事



どうしてコミュニティ・スクールという制度が始まったのですか?

教育は、地域住民にとって身近で関心の高い行政分野です。学校だけで担うのではなく、広く地域の方々の意向を踏まえて行われる必要があるとされ、始まりました



地域の人の意見などを取り入れるために、地域住民や保護者が学校運営協議会の委員になっているのですね。学校運営協議会とSCSCではどのようなことをしているのですか?

学校運営協議会には、校長が示した学校運営の基本方針を承認すること、学校運営について校長に意見を述べるという大事な役割があります。こうした役割を踏まえて、学校のことや子どもたちのこと、地域のことなどについて話し合い、解決すべきことには地域住民も学校と一緒に考えて、SCSCとしてさまざまな取り組み(6~9ページ参照)を行っています



学校と子どもたちにとって、とても心強い存在ですね



そうですね。今、学校は「地域とともにある学校」を目指していて、授業を通じて地域づくりに貢献することが求められています。これまで、学校は地域の人いろいろな支援をしていただいていた。しかし、これからは学校も支援されるだけでなく、地域の一員としての役割を果たしていくために地域づくりにも関わっていきます。そのための役割を担うのがコミュニティ・スクールです



なるほど、学校と地域が一緒になって“良い学校”“良い地域”をつくっていこうということですね

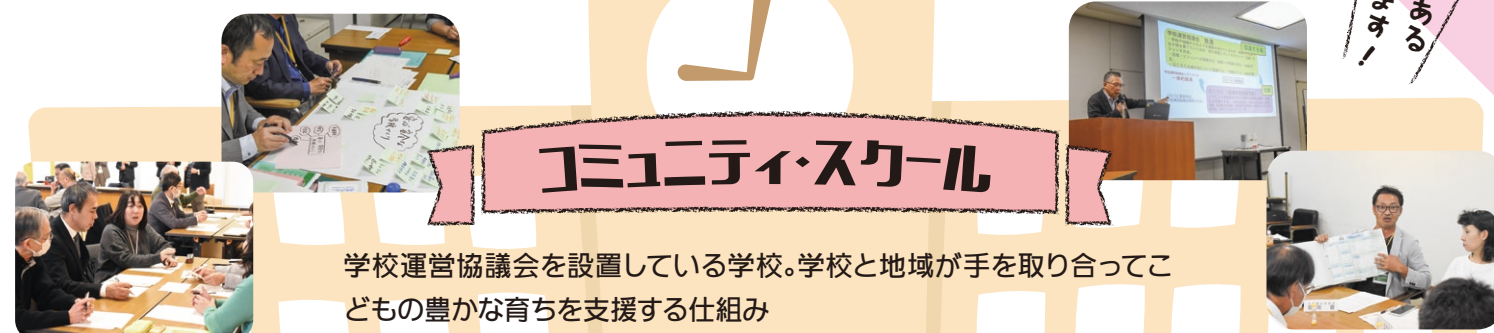
# 地域と共に歩む 地域がつながる コミュニティ・スクール



学校が地域住民などと目標やビジョンを共有し、地域と一体となつて子どもたちを育む仕組みとして、文部科学省が推進しているコミュニティ・スクール。市では7年4月に全ての公立小・中学校に学校運営協議会が設置され、全校がコミュニティ・スクールとなりました。

今月は、事業に携わっている方々のお話や活動の事例を中心に、コミュニティ・スクールについてお伝えします。

地域とつながる  
学校づくり



## コミュニティ・スクール

学校運営協議会を設置している学校。学校と地域が手を取り合って子どもの豊かな育ちを支援する仕組み

### 学校運営協議会

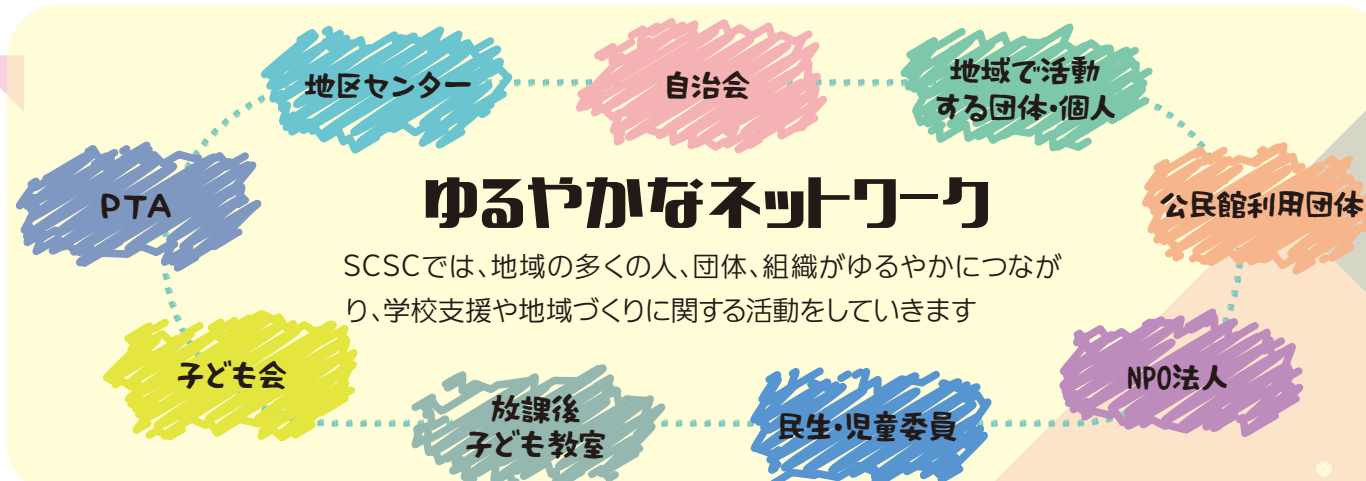
地域住民や保護者、学校の管理職などが委員となり、学校のことや子どものこと、子どもを取り巻く地域のことなどについて協議する

### すくすく SCSC

学校運営協議会で話し合ったことを実行する・実現させる地域学校協働活動のこと。活動をコーディネートする立場として、SCSC推進員(学校運営協議会の委員と兼任)が委嘱されている



市では、地域学校協働活動の略称を「SCSC(すくすく)」と表記しています。これはSayama Community School Collaborationの頭文字で、地域と学校の協働により、子どもがすくすく成長できるように学校づくり・地域づくりを進めようという意味が込められています





## “まちの先生”から学び、多様な経験

広瀬公民館と連携し、地域で活動しているサークルの方を講師として、授業が行われました



広瀬小学校区

押し花の会あすなろによるレインボー学級への押し花の授業です。鮮やかな花を並べて作るモチーフのかわいらしさに喜ぶ子どもたち。優しく丁寧な声かけで教わりながら、思い思いの作品を作りました。

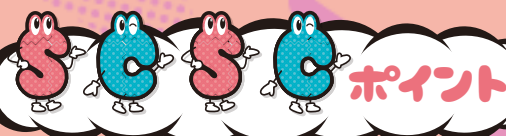
押し花の会あすなろ なくも てるこ 名雲照子さん

この取り組みのために新しく準備しているというより、普段の活動でも使用している材料を提供して子どもたちに作ってもらっているのが、無理なく協力することができています。授業が始まると、子どもたちは夢中になって押し花を作ってくれますし、その時の楽しそうな顔を見られることがやがていいになりますね

3、4年生を対象に阿波踊りのむさし葵連が授業を行いました。狭山市入間川七夕まつりで見るとはあっても、自身が経験するのは初めての子どもたちがほとんどです。掛け声に合わせて踊りは熱量を増し、たくさんの人に笑顔が溢れていました。

むさし葵連 としや 木村俊也さん

いろいろなスポーツがある中で、阿波踊りをやる機会はあまりないと思います。学校で授業として取り上げてくれることで、阿波踊りの普及になりますね。子どもたちに教えることは、私たち大人にとっても勉強になっているのでWin-Winの関係です。他の習い事などは同じ世代の中でやるものが多いですが、阿波踊りの連には小さい子から年配の方までいますので、いろいろな世代の人と関わりながらできるのが良い



子どもがさまざまな人と出会い、幅広い経験ができる

# SCSCの取り組み

それぞれの地域で行われているSCSCの取り組みを、関係者のコメントとともにご紹介します。

笹井小学校区

## 地域の伝統芸能である笹井豊年足踊りを身近に

笹井豊年足踊り保存会の方を講師として招き、3年生を対象に授業を行っています。保存会の方の実演を見た後、足での踊りや太鼓演奏の練習を行いました。実際に授業を受けたことで興味を持ち、保存会の活動に参加している子どももいます。

笹井豊年足踊り保存会 小峰孝男さん

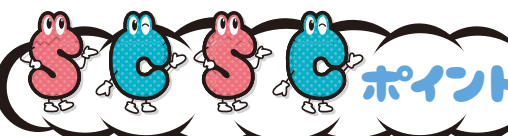
こうして授業で触れてもらうことで、興味を持ってくれるような子がいれば、やる意味があるのではないのでしょうか。太鼓を覚えるのも、1曲であれば授業内に覚えてもらうこともできますが、ちゃんと習得しようと思えばある程度の修練が必要になります。授業の後も続けていきたいと言えるような子がいれば、伝統芸能を保存していくことができます。そのきっかけになってほしいですね



例年開催している笹井小バザーでは、さまざまな催しと合わせて会場内で笹井豊年足踊りを披露しています。多くの子どもや地域住民が訪れる場所で皆さんの目に触れることで、伝統芸能の周知につながっています。当日は飛び入りで太鼓の体験も。

同会 いちか 鈴木一歌さん(高校1年生)

私も笹井小の出身です。お囃子は小学校3年生から、足踊りは5年生から続けています。日本の音楽が大好きで、太鼓をやりたいと保存会に入りました。練習は隔週金曜日でありますが、学校やアルバイトもあるので出られるときに参加しています。自分の地元でこうした伝統芸能があることは嬉しいですね。私のように関心のある子どもたちが増えてくれたら良いと思います



地域に誇りを持ち、関わる人が増えることで地域が活性化



## 学校と家庭だけじゃない みんなの居場所「ポッカぽか」

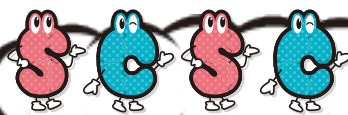


### 柏原小学校区

柏原公民館では月に2回、放課後にこどもたちが集まって自由に過ごせる場所を作っています。手作りのおもちゃなどを用意し、大人も見守りしていますが、基本的にはこどもたちが自分たちで考え、宿題をしたり、友達と遊んだりしながら楽しんでいます。

#### ポッカぽか 鈴木悦子さん

こどもの居場所作り事業を始めたきっかけは学童で働いていたことです。今と昔では、こどもたちの人との関わり方が変わってきているように感じました。こどもが友達や大人と自由に関わりながら、自分で考えて楽しく遊べるように、それから、不登校の子や学童に入れなかった子の受け入れのために、仲間と公民館と話し合いをして立ち上げたんです。



#### ポイント

地域全体で子育て、見守りを行う体制づくり

## ふるさとに親しむきっかけづくり

語り部グループななこ会と学校の図書ボランティアによる「夏の読み聞かせ会」が開催されました。堀兼公民館を会場に、ふるさと学習の一環として「ほりかねの民話」が分かりやすく語られました。小学生だけでなく大人や地域の保育園に通う園児も参加し、自分たちが生活する地域のことと、そこで活動する人々のことについて知るきっかけとなりました。



### 堀兼小学校区



#### ポイント

## 安全安心な地域に みんなで110番の家を確認

「こども110番の家」は、こどもたちが身の危険を感じたときに駆け込んで助けを求められる場所として、地域の方の協力を得てさまざまな所に設置されています。授業でこどもたちが自ら意見を出し合い、110番の家が少ない所に新たに設置してもらいました。さらに、地区内の設置場所を一覧化してスタンプラリー形式で回り、110番の家を確認しました。

#### 5年生 あかりさん

たくさんの場所を回って、それぞれの110番の家の人が「スタンプはここにあるよ」と教えてくれました。その人たちと話せたり、顔が分かるようになってきました。いざというときに今回覚えたことが役に立つと思います。

#### あかりさんの保護者

110番の家はここにもあったんだね、なんて話しながらスタンプラリーをして、場所が分かるようになって安心しました。近くの場所だけではなく、少し離れた場所も確認できたことが良かったです。



### 御狩場小学校区



#### ポイント

## 全世代で祭りの熱気を高めて固く結束



### 入間川小・中学校区

「鵜ノ木夏祭り」では、小学生が<sup>だし</sup>神輿を引き、中学生が<sup>みこし</sup>神輿を担いで地区内を巡行しました。巡行の最終地点である入間川中学校のメイン会場では、盆踊りやビンゴ大会、吹奏楽部の演奏などが行われ大人もこどもも一緒に盛り上がりました。



#### ポイント



# ていだん SCSC 鼎談

※3人で向かい合って話をする

SCSCに携わる3名の方に、これまでの活動や地域と子どもたちとの関わりについて対談形式でお話を伺いました。

SCSCに携わる3名の方に、これまでの活動や地域と子どもたちとの関わりについて対談形式でお話を伺いました。

江頭：自治会の餅つきに小学生のブラバンドとダンスバトンクラブを呼んでゲームの催しなども合わせたイベントをやったことです。この自治会に所属している世帯の子どもは10人もいないのですが、当日参加した子どもは57人。これだけ参加者が集まるというのは地域からしたらもう楽しくって、次も頑張ろうって気持ちになったと思います。また、普段接点のない先生方と地域の方々をつなげることができ、学校にとっても自治会の存在を身近に感じてもらうえたと思います。子どもを通して、学校と地域と保護者の三者がつながることができました。

渡邊：学校運営協議会やSCSCの活動が終わった後に、委員のみんなが帰りに道に寄る公民館に寄って、15分くらいおしゃべりをして帰る時間です。こういう場の方が本音が出るので、それ



江頭：地域のみなさんと積極的に関わる中で、社会の役に立っていることを自分で見つけてほしいです。

渡邊：地域のことを自分のこととして、地域と一緒に育ててほしいと思います。

原：子どもたちには地域のことに参加し、いろいろな知識や経験を積んでたくさん吸収してほしいです。

Q どういう活動をしてきましたか？

江頭：新狭山小学校区では、学校やPTAとしてではなく学校運営協議会の発信で、いろいろなところを巻き込みながら、単独で行う活動ではないということに重きを置いてやっています。授業支援も行っていて、今年度はミニバス大会の前に、社会人バスケットボールチームに所属している保護者に、6年生の指導をお願いしました。

原：堀兼小学校区では主に、学校の授業の中での活動、公民館事業との協働による活動、公民館事業ではないけれど公民館を使用する活動をしています。例えば「語り部グループ」など、こ会による地域・郷土に関する学習会、さらに図書ボランティアさん



原：堀兼小学校区では主に、学校の授業の中での活動、公民館事業との協働による活動、公民館事業ではないけれど公民館を使用する活動をしています。例えば「語り部グループ」など、こ会による地域・郷土に関する学習会、さらに図書ボランティアさん

渡邊：堀兼のお化け屋敷ですね。子どもたちがボランティアとして参加したと聞いているので、その形は他の地域の参考になるんじゃないかな。

原：参加する人が一番力を発揮できるように、入り口のハードルをすぐく下げていけるので、何かちょっとでも関わりを持ってもらいたいなと思っています。

江頭：子どもたちに接するときには、新しい発見をさせて喜んでもらうというのをまずに持つていてほしいです。そうでないと、叱ってしまったりダメ出ししたりが多くなってしまう方もいますので。教え方には配慮の気持ちがないと、学校と地域とで協力していくことが難しくなってしまうこともあります。こういうことは学校側からは発信できませんのでね。

原：学校が言えないことの代弁というの、我々の大きな役割のひとつですね。子どもたちに関わる時に意識してほしいのは、できるだけ直接答えを教えず、自分で「なんでだろう」と「そうなんだ」に変える機会を与えてほしいということ。それから渡邊さんと同じように私も思うのが、幸福の源はやっぱり人のために何かをすること。私も今その幸福を味わっていますし、いろいろな人たちに味わってほしいですね。

原：堀兼小学校区では主に、学校の授業の中での活動、公民館事業との協働による活動、公民館事業ではないけれど公民館を使用する活動をしています。例えば「語り部グループ」など、こ会による地域・郷土に関する学習会、さらに図書ボランティアさん

渡邊：堀兼のお化け屋敷ですね。子どもたちがボランティアとして参加したと聞いているので、その形は他の地域の参考になるんじゃないかな。

原：参加する人が一番力を発揮できるように、入り口のハードルをすぐく下げていけるので、何かちょっとでも関わりを持ってもらいたいなと思っています。

江頭：子どもたちに接するときには、新しい発見をさせて喜んでもらうというのをまずに持つていてほしいです。そうでないと、叱ってしまったりダメ出ししたりが多くなってしまう方もいますので。教え方には配慮の気持ちがないと、学校と地域とで協力していくことが難しくなってしまうこともあります。こういうことは学校側からは発信できませんのでね。

原：学校が言えないことの代弁というの、我々の大きな役割のひとつですね。子どもたちに関わる時に意識してほしいのは、できるだけ直接答えを教えず、自分で「なんでだろう」と「そうなんだ」に変える機会を与えてほしいということ。それから渡邊さんと同じように私も思うのが、幸福の源はやっぱり人のために何かをすること。私も今その幸福を味わっていますし、いろいろな人たちに味わってほしいですね。

おわりに

学校運営協議会では日々議論が交わされ、その実践の場として、子どもに思いを寄せて工夫されたSCSCの取り組みが、市内のいたるところで行われています。地域の人が子どもたちに関わり、世代を超えた交流が行われている様子は、狭山市のコミュニティ・スクールが目指している在り方です。

イベントなどには、地域の担い手となっている中学生、高校生の姿がありました。自分たちの暮らす場所に関わりを持つ子どもたちが増え、高校生や大学生、社会人になっても変わらずにつながり続けてくれれば、それぞれの地域には明るい未来が待っています。

原：夏休みの宿題を早く終わらせ

江頭：まず一つは保護者対応をしつかりやること。保護者の不安や不満に寄り添える形にしたいと考えています。もう一つは授業支援の充実ですね。夏休みにほぼ全ての教員の方と会談をする時間を作ってもらい、さまざまな形での支援を望んでいることを伺いました。

渡邊：まずは知ってもらうことが大事なので「発信力」を高めていきたいです。その結果として、たくさんの人に楽しみながら関わってもらえるようになると思います。

原：自分たちは仕掛け人に徹する」ということです。私たちだけでは完結できないので、いろんな人たちに関わってもらい、協力し合っています。

江頭：まず一つは保護者対応をしつかりやること。保護者の不安や不満に寄り添える形にしたいと考えています。もう一つは授業支援の充実ですね。夏休みにほぼ全ての教員の方と会談をする時間を作ってもらい、さまざまな形での支援を望んでいることを伺いました。

渡邊：まずは知ってもらうことが大事なので「発信力」を高めていきたいです。その結果として、たくさんの人に楽しみながら関わってもらえるようになると思います。

原：自分たちは仕掛け人に徹する」ということです。私たちだけでは完結できないので、いろんな人たちに関わってもらい、協力し合っています。